

# No.1810

## 第1811回例会

2018年6月15日(金)18:30~21:00

点鐘

ロータリーソング “それこそロータリー”

物故会員に黙祷

会長会務

\*ゲスト紹介

米山奨学生 許 作如さん

\*先週は木原副会長にお世話になりました。

\*今日は鳥取西RCの創立38周年記念祝賀会で  
す。加藤一吉会員の春の叙勲受章祝賀会を合わせ  
たダブルの祝賀会を準備しています。

皆さんと一緒に楽しみたいと思っています。

幹事報告

\*年度末ですので、今期の請求書はお早めにお願  
いいたします。

\*次週の例会が今年度最後の例会となります。

6月29日は定款により休会といたします。

お間違いのないようご注意ください。

委員会報告

\*親睦・出席委員会

出席率・スマイル報告

\*その他

創立38周年記念例会懇親会

加藤一吉会員叙勲受章祝賀会

\*会長あいさつ

\*加藤会員へお祝いの言葉・記念品贈呈

\*加藤会員ごあいさつ

\*鳥取西RC年金授与

\*DVD放映「今期1年を振り返って」

\*ロータリーソング

手に手つないで

\*副会長閉会あいさつ

## 先週(第1810回例会)の記録

2018年6月8日(金)12:30~13:30

会長会務(副会長代行)

\* 倭島会長は本日出張のため、私(木原副会長)  
が会長会務を担当します。

\* 2018-2019年度 R I 第2690地区 第1グ  
ループ・東部5RC次期会長幹事会が6月1日  
に開催され、5クラブの輪番制の確認、合同例  
会の確認、米山奨学生交流会の開催、各クラブ  
への名簿配賦中止等について審議しました。

続いて第1グループ次期会長幹事会が開催さ  
れ、次年度活動方針、行事予定などを確認、審  
議いたしました。

\* 今年も夏期に入りました。6・7・8月の和月  
名の語源について紹介してみましよう。6月の  
和名“水無月”は、“水”と“月”の2文字を  
連体助詞の“無”でつないだ“水の月”の意に  
由来します。7月の“文月”は、七夕の短冊に  
文字が上手くなるように願いを込めたことに  
依っています。8月の“葉月”は、葉が落ちる  
月の意に由来しています。もちろん、これらに  
は諸説のあることが紹介されています。和月名  
には各々の意味が込められていますので、調べ  
てみると面白いと思います。これからの夏場を  
健康管理に努めながら過ごして参りましよう。

幹事報告

\* 理事会報告

・ 上野新会員の所属は親睦出席委員会

・ 暑気期間中のクールビズを了承

・ 金本勝彦会員の6月末での退会を了承

\* 次週6月15日は、創立38周年記念夜間例会、  
及び加藤一吉会員の叙勲祝賀会です。

\* 新旧理事役員引き継ぎ会を開催します。

6月13日(水)18:30~ 花のれん

## ビジター

鳥取北RC 1名

## 出席率

6月 8日 会員55名 欠席15名 71.15%

5月25日 メーキャップ 10名 96.15%

## 次期社会奉仕委員会 麻木次期委員長

7月1日(日) 青島一斉清掃が開催されます。午前8時開会式、少雨決行。大雨の時は7月8日に延期。青島公園広場に集合ください。鎌・軍手等はお持ち参ります。ご参加にご協力下さい。

## スマイル

- \* 塚田 隆さん(鳥取北) / 次年度鳥取北RCのSAAを担当します。本日は他クラブ例会の初めての出席となります。よろしくお祈りします。
- \* 倭島昭博会員 / ①木原副会長、本日の会長会務お世話になり、ありがとうございました。感謝申し上げます。②プログラム委員長の山村さんの卓話が本年度最後の会員卓話となります。大変良い締めくくりをして頂いて、有難うございます。山村さんの持味を生かしたお話が聞けなくて「ゴメン」なさい。
- \* 木原一志会員 / 本日、会長代行させていただきました。ありがとうございました。
- \* 松島 勇会員 / ①昭和52年車庫1台分で親父と始めました。(創業祝い) ②山村さん、本日はお世話になります。
- \* 山村保雄会員 / 山村さん、本日は卓話よろしくお祈りします。
- \* 田中好洋会員 / 創業37年目に向かいます。
- \* 牧浦康寛会員 / 創業祝、ありがとうございます。
- \* 森本和夫会員 / 創業記念日
- \* 早退 / 2件 合計21,000円

## 卓話「街道を行く 一中山道一」

山村 保雄 会員

私が行う「町並みシリーズ」の卓話は5回目です。本日は中山道を取り上げてお話をさせていただきます。

中山道には、江戸の日本橋から京都の三条大橋まで六十九次があり、距離は530kmです。京から江戸に向かって、主要な宿場町を辿りながら中山道を紹介します。

### 〈京から近江を経て美濃の国へ〉

京の三条大橋を出立して最初に着くのが「草津宿」です。東海道と中山道が分岐する場所で、一般の宿場町の2倍の規模がありました。ここには田中七左衛門本陣跡が往時の姿を留めています。「鳥居本宿」は、雨合羽と腹巻の赤玉神教丸(あかだまじんきょうがん)が特産で、往時には油紙で作る雨合羽屋が20軒ほど存在したと言われていました。町並みの中心地には腹巻を扱った大商人、有川家の重厚な邸宅が保存されています。「鵜沼宿」は、各務原市の東端にあり、木曾川を利用

した木材運搬で栄えました。今は行政によって本陣・脇本陣跡が復元され、新しい宿場町として整備されています。「美濃大田宿」は、難所である木曾川の急流を渡る舟待ちの宿として設置され、飛騨街道と郡上街道に分岐する交通の要所として栄えました。脇本陣であった林家邸では、見事な「本うだつ」を見ることができます。「大井宿」は、高札場から大井橋までの870mの間にあります。街道は、6ヶ所で屈折して地内の5町を区切っており、特異な町並みを形成しています。

### 〈美濃から信濃の国へ〉

中山道で最も険しい山間部を通るのが木曾路で、ここには11の宿が設けられました。木曾路に入ると「落合の石畳」があります。十曲峠(つづらおれとうげ)を包む鬱蒼とした森林木立を縫って、昔日の面影をとどめる石畳が続いています。「馬籠宿」は、西国方面から木曾路に入って最初にある宿場です。急峻な山の斜面を開いて作られており、今でも観光客で賑わいを見せています。宿場を離れると、旅人の前には馬籠峠が立ちはだかります。峠を越えて進むと「妻籠宿」があります。妻籠は日本における町並み保存運動の原点であり、重要伝統的建造物保存地区として最初に指定を受けています。「上松宿」は、木曾の名勝地「寝覚の床」のある宿、そして、浦島太郎伝説の地として知られています。「木曾福島宿」は、木曾谷の最も奥深い場所にあり、現在も木曾の中心都市となっています。木曾川の急流にせり出すように建つ「崖屋造り」の家々は、当地を象徴する風景となっています。「奈良井宿」は、木曾路で最も標高の高い所にあり、木曾路最大の難所である鳥井峠を控えて多くの旅人が宿泊しました。「塩尻宿」は、千国街道と三州街道が結ばれる地にあります。海がなく塩を産出することができなかつた信濃では、太平洋及び日本海沿いの産地から街道を通じて塩を移入していました。塩尻は、塩の道の終点を意味する地名となっています。「下諏訪宿」は、中山道の宿場町であると同時に、江戸からつながる甲州街道の終点でもあります。宿場跡には上問屋を務めた岩波邸が現存しており、江戸時代の風情を感じさせてくれます。「茂田井宿」は、芦田宿と望月宿の間に設けられた間宿です。ここには佐久地方を代表する二つの酒蔵があり、2社が中心となって町並整備や文化事業の推進にあたっています。藤沢周平著『たそがれ清兵衛』の小説の舞台となったのは当地です。

会員の皆様も時間を作って中山道を旅してみられたらいかがでしょうか。

## 次週例会予定

2018年6月22日(金) 第1812回例会  
全員協議会「理事役員退任あいさつ」

(編集者 小林 一)